

書類が飛ばない風速をCFD解析で実現

熱帯でありながらエアコンなしで快適性を得るため、ビル内に風の流れを確保するべく「WindPerfect」によってCFD解析が行われた。ただし、風が通ればいいというわけではない。新聞社のため、机の上の紙が飛ばない程度に風速を調整する必要がある。「エアタワー」と呼ばれるチューブ状の装置で風速を落とすことでこれを実現した。CFD解析により、難しい条件での自然風の流れを設計に反映した稀有(けう)な事例といえる。

WindPerfectはアトリウムやドームなどの大空間や工場、クリーンルームなどの特殊空間の温熱環境問題解決をルーツとして成長した。そのため複雑な形状の空間や特殊な空調設備を持つ空間の解析を得意とし、精度の高い温熱環境の予想も可能である。



小嶋一浩+宇野享+
赤松佳珠子/
CA_t+CA_n
+Vo Tring Nghia

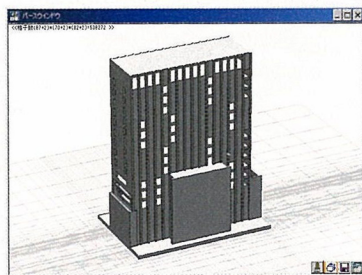
サイゴン解放新聞社本社ビル

【建物概要】

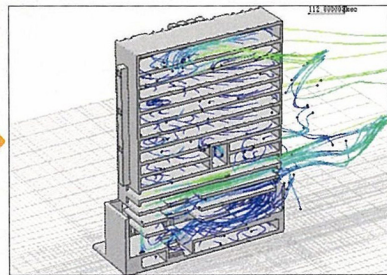
建設地 ● ベトナム・ホーチミン

主要用途 ● 新聞社本社ビル

【使用した解析ソフト】WindPerfect



小さな開口部が開けられたファサードを、性能上齟齬(そご)がないようにモデル化した。



室内の換気状況をパーティクルトレーサーで表現し、換気の問題点のある空間を特定した。